

## 新型コロナワクチンで指摘される“懸念”には科学的証拠が不足している

2024/10/2 日刊ゲンダイ（荒川隆之／薬剤師）

### 【クスリ社会を正しく暮らす】

10月から高齢者などを対象にした新型コロナワクチンの定期接種が始まりました。現在、使用可能なワクチンは、米モデルナの「スパイクバックス筋注」、米ファイザーと独ビオンテックの「コミナティ筋注」、武田薬品工業の「ヌバキソビッド筋注」、第一三共の「ダイチロナ筋注」、Meiji Seika ファルマの「コスタイベ筋注用」の5製品で、オミクロン株の派生型「JN.1」系統対応で承認を得て、供給されています。

最も多く使用されると考えられるのはmRNAワクチンで、コミナティ筋注、ダイチロナ筋注、スパイクバックス筋注の3種類がそれに該当します。なかでもコミナティ筋注は、今までの使用実績や1人用のシリンジ製剤が販売開始になったことも考え合わせると、最も多く使用されるのではないかとみられています。残る2種類はmRNAワクチンではありません。ヌバキソビッド筋注は組み換えタンパク質ワクチンで、このタイプのワクチンは、インフルエンザウイルスワクチンや帯状疱疹ワクチンなどにおいて承認実績があります。

コスタイベ筋注用ワクチンは、「レプリコン（自己増幅型）ワクチン」と呼ばれる新たなワクチンです。細胞内に送達されると自己増殖されるよう設計されているため、少ない薬剤量で長期間にわたる免疫を得られると考えられています。このレプリコンワクチンに含まれるsa-mRNAは自己複製することから、「接種者から非接種者に感染する（シェディング）の懸念がある」と指摘する声も上がっています。それを受け、「レプリコンワクチン接種者の入店お断り」を表明するお店が現れたり、医療関係者の一部から懸念が表明されるなど、接種に関して心配する声も上がっています。

しかし、レプリコンワクチンのシェディングの可能性は理論的には指摘されていますが、現時点で確立された科学的証拠はありません。エビデンスも不足しているためさらなる調査が必要で、過剰な警戒心をあおることは適切ではないように思われます。

### 「マスク論争」に終止符？ 新たなエビデンスが英国医師会誌で報告される

2024/08/11 日刊ゲンダイ青島周一勤務薬剤師

新型コロナウイルスのパンデミック時において、感染拡大の抑止を目的にマスクの着用が推奨されました。一方、妥当性の高い医療情報として定評のあるコクランレビューに、2023年1月30日付で報告された論文では、感染予防に対するマスクの有効性は示されませんでした。

ただし、コクランレビューで分析された研究データの質は低く、マスクの有効性については議論の余地も多く残されていました。そのような中、感染症に対するマスクの効果を検証した研究論文が、英国医師会誌の電子版に24年7月24日付で掲載されました。

ノルウェーで実施されたこの研究では、18歳以上の4647人が対象となりました。被験者は、公共の場（ショッピングセンター、路上、交通機関など）でマスクを着用する群と、マスクを着用しない群にランダムに振り分けられ、呼吸器感染の症状（鼻水や咳、くしゃみ、倦怠感など）を報告した人の割合が比較されています。なお、この研究は新型コロナウィルス及びインフルエンザウィルスが流行していた23年2月10日から4月27日までの間に行われており、マスクを着用する群の被験者には、サージカルマスクが無償で提供されました。

14 日間にわたる追跡調査の結果、症状の報告は、マスクを着用する群で 8.9%、マスクを着用しない群で 12.2%と、マスクを着用する群で 29%、統計学的にも有意に低下しました。ただし、マスクを着用する群では、他の人から不快な言葉を浴びせられた人や、「マスクの着用はバカげている」と感じた人が多いことも分かりました。

論文著者らは「マスクの着用は負担が少なく低コストであり、感染症の拡大を防ぐうえで、積極的に検討できる公衆衛生上の対策である」と結論しています。